

紀州海岸に見られる蟻

徳 永 雅 明

1930年以後數回に亙つて紀州海岸(瀬戸京都大學臨海研究所を中心とした)の昆蟲相調査を行つた時に得た蟻に就いて報告します。何かの参考になれば幸いです。

此の報告は蟻を中心とした調査に基いたものでなく、海濱棲及び海棲昆蟲相調査を行つた際に得た材料と紀州特産とも見られる海濱植物「ハマオモト」(*Grinum asiaticum, japonicum*)に就いての昆蟲相調査の節に得た材料とから蟻に関する部分を抜粋したものです。採集及び觀察には目下臺灣總督府中央研究所衛生部に居られる大森南三郎氏に、種名同定其他には寺西暢氏にそれぞれ大變御世話になりました。兩氏に厚く感謝致します。

〔 1 〕

採集しました蟻は次の十六種で、各々の採集場所を附記する。

1. *Crematogaster (Acrocoelia) laboriosa* Smith
14-VI, 15-VI 「ハマオモト」の葉上 (♀)
2. *Crematogaster (Acrocoelia) brunnea ruginota* Forel, var *vagula* Wheeler
12-VIII, ケカノハシの葉上 (♀)
3. *Aphaenogaster (Attomyrma) famerica* Smith
17-VI, 蜘蛛の網に懸る (♀)
4. *Camponotus (Myrmamblys) itoi tokioensis* Ito
11-VI, 海岸岩壁上 (♀)
15-VI, 「ハマオモト」の葉上 (♀)
5. *Camponotus (Camponotus) japonicus* Mayr
11-VI, 13-VI, 20-VI, 海岸岩壁上 (♀)
21-VI, 「ハマコウ」の葉上 (♀)
6. *Iridomyrmex itoi* Forel
12-IV, 干満潮線間海藻間
13-VI, 14-VI, 「ハマオモト」葉上及花上 (♀)
17-VI, 「ハマコウ」の葉上 (♀)
17-VI, 砂濱上 (♀)
17-VI, 燈に来る (♀)

- 7 *Lasius (Chthonolasius) umbtatus* Nylander
24—VI, 燈火に来る (♂)
- 8 *Lasius (Lasius) niger niger* Linneus
11—VI, 「ハマオモト」を害する夜盜蟲の幼蟲を捕食す (♀)
- 9 ** *Lasius (Lasius) niger brunneus* Forel
23—VI, 干満潮線間岩礁上 (♀)
24—VI, 燈火に来る (♂)
- 10 *Tetramorium guineense* Fabricius
13—VI, 3—VIII, 「ハマオモト」夜盜蟲卵を食す (♀)
17—VI, 「ハマオモト」葉上 (♀)
30—VIII, 燈火に飛來る (♂)
11. ** *Tetramorium caespitum jacoti* Wheeler
27—VI, Tide—pool に浮漂す (♂)
12. *Paratrechia (Nylanderia) sakura* Ito
17—VI, 海濱死魚に集る (♀)
13. *Pristomyrmex pungens* Mayr
11—VI, 海岸岩壁上 (♀)
14. *Pheidole nodus* Smith
12—VI, 海濱雜草上 (♀)
13—VI, 「ハマオモト」夜盜蟲卵を餌に (♀)
12—VIII, 海岸岩壁上 (♀)
15. *Pheidole* Sp.
15—VI, 海濱砂上 (♀)
- 16 *Monomorium nipponense* Wheeler
13—VI, 「ハマオモト」夜盜蟲卵を食す (♀)
14—VI, 「ハマオモト」花上 (♀)
「ハマオモト」上に見出されたる種
** 海濱干満潮線間に見出されたる種
(2)

NOTICE THIS MATERIAL MAY BE PROTECTED BY COPYRIGHT LAW.

以上の種類中「ハマオモト」に見出された六種は「ハマオモト」の大害をなす唯一の害蟲とも見做される夜盜蟲の幼蟲及び卵を直接間接に驅除し、「ハマオモト」保護の見地からは益蟲と思はれる。元來「ハマオモト」夜盜蟲は寄主植物中に穿入して柔韌組織を食害し、驅除甚だ困難な害蟲であるのみならず、寄生的關係にある天敵昆蟲も未だ知られていない。僅に橙黃黴菌(*Sterigmatocystis fulva* Sacc. det. by prof. Yamamashu)の寄生により斃死するを確めたに過ぎない。他方上記の蟻類による此の害蟲の驅除される數は大なるものと思はれ

る。今此等の蟻により夜盜蟲卵の驅除される状態を野外で観測した結果は次の表の様である。

卵塊	産着場所	産下卵数	孵化		死	卵	蟻により駆除された卵	
			個数	%			個数	%
No. 1	花 苞	25	0	0	0	0	25	100
No. 2	花 苞	36	0	0	0	0	36	100
No. 3	花茎上部	71	0	0	3	4.2	68	95.8
No. 4	花茎下部	65	11	21.5	1	1.5	50	77.0
Total	—	197	11	7.1	4	2.0	179	90.9

上の表に見る様に全産下卵の略々96%迄は此等の倒蟻によりて驅除される有様で「ハマオモト」夜盜蟲の自然抑制 (natural control) に蟻は可成り有力に働いて居ると思はれる。

(3)

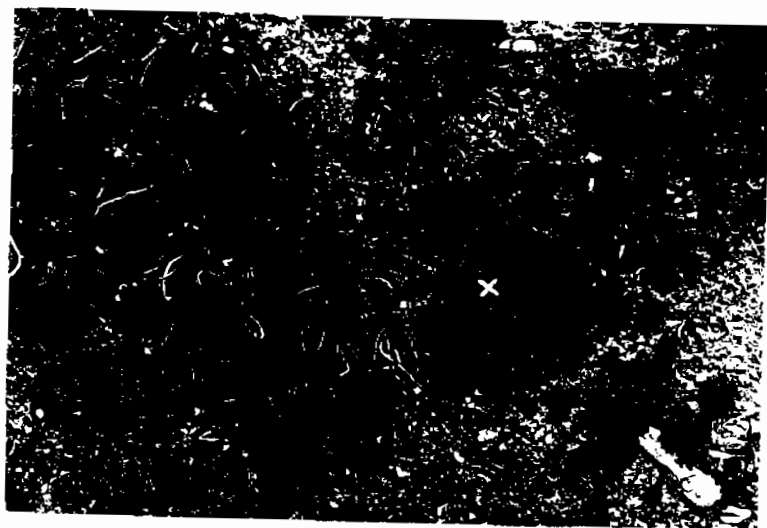
上に掲げた十六種の蟻の中三種類は海岸干満潮線間に得たものであるが、第九及び第十一の種類は交尾飛翔に際し偶然飛來したものであると思はれる。他の一種 *Iridomyrmex itoi* Forel (スリアリ) は「ハマオモト」に見出されたのみならず、干満線間岩礁上に営巣してゐるのを今春観察した。寺西氏の御通信に依ると此の蟻の営巣場所は枯木の表皮下又は木質内、空洞枝、枯竹の筒中、樹木の樹株等が普通で、時に海濱砂地にある漂木の下に巣を見た事があるが干満潮線からは數メートルも離れた所であつた。との由で満潮線以下に営巣して満潮時には海水中に没する様な所は勿論此の蟻には普通でなく偶然的な営巣場所であると思はれねばならないが、それにしてもかかる環境で卵を孵化し幼蟲を哺育してある大きさの群に發達し得る事も可能であると思はれる。観察された蟻群を見出したのは寫眞で示す様な岩礁で廣い砂地を距て、海岸草木帯から隔離され、満潮時には大部分が海水中に没する様な所で、勿論蕪花植物は存在して居らない。此の群は五六十頭の幼蟲と二三十の卵及び幼蟲から出來た小群で海草、ハナフソリ (*Gloiopeltis cervicornis*) 及び、ソクロノリ (*Gloiopeltis furcata*) の密生した所に特別な防水的な装置も持たずに営巣して居つた。斯る場所なので食餌の大部分は附近に生活して居る動物に仰いで居るものと思はれる。同一場所にはイソギンチャク、コメカリラ、ヒシラガヒ、等の固着動物以外には次の様なものが普通に見出された。 *Diалota* sp. (Staphilinidae), *Limonia trifilamentosa* Alexander の幼蟲 (Orchestia) sp. (Amphipuda) *Clymno-dore japonica* Richardson

(1934. 8. V)

第四圖版(關西昆蟲雜誌第二卷)
紀州海岸に見らるる×蟻 徳永雅明



寫眞 1. 「ケガキ」「フノリ」類の着床せる岩塊(退潮直後)
×「ルリアリ」の蟻巣個所



寫眞 2. 寫眞(1)の近景(退潮直後)
長形 of 海草は「フクロフノリ」
群状 of 海草は「ハナフノリ」
×「ルリアリ」の蟻巣個所